

第 1 回 可児市地域公共交通協議会 議事要点録

1. 開会日 平成 30 年 8 月 29 日（水曜日）
開会時間：14 時 00 分
閉会時間：16 時 00 分
2. 開会場所 可児市役所 4 階第 1 会議室
3. 出席者 会長、協議会委員 15 人、代理委員 3 人、
その他（多治見市）2 人、事務局 3 人
4. 議事
協議第 1 号 多治見市ききょうバス総合福祉センター・太平公園線の廃止及び代替
交通手段の確保について

報告第 1 号 市コミュニティバス平成 29 年度実績及び平成 30 年度事業について

報告第 2 号 市地域公共交通網形成計画策定に係る基礎調査について

協議第 2 号 可児市地域公共交通網形成計画について

| | |
|------------------------|---|
| 5. 会議内容 | |
| 開会 事務局 | 開会を宣言した。 |
| 会長あいさつ 会長 | あいさつを行った |
| 非公開情報の確認 事務局 | 非公開情報はない旨を報告した。 |
| 議事録署名者の指名 会長 | 議事録署名者として、2名の委員を指名した。 |
| 公共交通について 事務局 | 可児市の公共交通について 資料2に基づき説明を行った。 |
| 質 疑 応 答 | |
| 委員 | 資料2の2枚目のスライドについて、上の表と下の表で人口・世帯数が違っているのはなぜか。 |
| 事務局 | 単純なミスと考えられる。確認して訂正する。 |
| 協議第1号 多治見市 | 多治見市ききょうバス総合福祉センター・太平公園線の廃止及び代替手段の確保について、資料3・資料4に基づき説明を行った。 |
| 質 疑 応 答 | |
| 委員 | 説明に登場した地域あいのりタクシーは、運行させる際に地域にも負担が生じるという説明だが、姫治・桜ヶ丘地区に説明をいただいているものなのか。 |
| 多治見市 | 特定の地区について、既に地域あいのりタクシー制度が動いており、その地区の住民であれば利用できるものである。 |
| 事務局 | 可児市にこういった制度はなく、これはあくまでも多治見市のものであるため、可児市の自治会では今のところ利用できない。 |
| 委員 | 多治見市としては平成31年の3月末で廃止にするというスケジュールで動いている、という理解でよいか。 |

| | |
|----------------|--|
| 多治見市 | そうである。 |
| 会長 | 可児市に関係しているバス停では、このデータを取っている間で利用はなかったのか。廃止しても特段影響はないのか。 |
| 多治見市 | 5月にバスに乗って回ったり、運転手に尋ねてみたりしたところ、固定客の利用があるのみで、可児市に関係しているバス停では乗降がないということだった。 |
| 事務局 | 事務局としても可児市側に影響はないと考えている。 |
| 会長 | バス停への貼り紙や自治会での説明会など、地域への廃止の周知は多治見市で行うのか。 |
| 多治見市 | 多治見市では行う予定でいる。可児市については要望があれば説明会を開催する。 |
| 会長 | バス停への張り紙で周知することをお願いしたい。 |
| 報告第1号 | |
| 事務局 | 市コミュニティバス平成29年度実績及び平成30年度事業について、資料5に基づき説明を行った。 |
| 質 疑 応 答 | |
| 委員 | Kバスについて、1日乗車券と1回乗車券では、どちらがどのくらい買われているのか。 |
| 事務局 | 今すぐには答えられないため、次回までに確認して報告する。 |
| 委員 | 運転免許証自主返納者への特典は、免許返納促進という目的ではなく、公共交通のお試し利用のためだと知り、それでは免許返納に対するインセンティブが弱いと感じた。 |
| 事務局 | 公共交通を担当する部署として、公共交通に乗ってもらうことが一番ではあるが、高齢者の元気づくりという観点で言えば、運転できるうちは元気に運転してもらう方がよいという考え方もある。コミュニティバスだけに乘ってくださいというわけではなく、お試しで利用してもらって、また利用していただければよいという思いで行っているものである。 |

| | |
|-----------------------------|---|
| <p>委員</p> | <p>援助してもらえらるなら返納するという人もいるため、ありがたいと思っている。その反面、警察としてもやはり元気なうちは自家用車に乗ってもらうのを支援していきたいという思いもある。</p> |
| <p>報告第2号 事務局</p> | <p>市地域公共交通網形成計画策定に係る基礎調査について、資料6に基づき説明を行った。</p> |
| | <p style="text-align: center;">質 疑 応 答</p> |
| <p>委員</p> | <p>乗降調査について、OD調査は行ったのか。OD調査を行ったのであれば、改善などに有効なデータが判断しにくくなっている。バスの運行のねらい通りの利用がされているのかどうかの検証はしているのか。</p> <p>網形成計画の計画期間について、現段階で決まっているのか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>OD調査の結果は配布した抜粋版には掲載していないが、毎年行っている調査があるため、計画策定に関しては活用していきたいと思っている。</p> <p>計画期間については、社会情勢が急激に変化する昨今において、長いスタンスのものでは問題があると考えているため、5年が適切ではないかと考えている。</p> |
| <p>委員</p> | <p>コンパクト・プラス・ネットワークという両輪で進める話もあるため、都市計画マスタープランが平成38年を目標にしているのであれば、そちらと整合をとることも必要ではないかと考えている。</p> |
| <p>委員</p> | <p>人口の概況において、人口は頭打ちになっているが、世帯数が伸びていることについて、何か分析をしているのか。また、高齢者の独居世帯が増えることは間違いのないため、そうした交通弱者の増加についての予想に対して、何か対策を打っていく必要があるのではないかと考えている。</p> |
| <p>会長</p> | <p>指摘の通り、高齢者の増加と交通弱者の増加は想定しなければならないことである。これらを鑑みるに、交通網はこれから必要になり、大きなテーマとなると考える。</p> |
| <p>委員</p> | <p>10・11ページで利用者の増減の傾向は分かったが、これではなぜそういった傾向にあって、それをどう改善していけばよいか分からない。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>次回、課題を出す際に乗客の増減があった箇所については分析をして、どのような課題があるのか検討する。</p> |

| | |
|-----------------------------|--|
| <p>委員</p> | <p>14・15ページで、利用が可能となる条件について、駅周辺の駐車場が利用しやすければ鉄道を利用するという回答が50%前後ある。回答方式が選択式である場合、安易な気持ちでこの選択肢を選択していないだろうか。また、回答割合のうち、通勤の人とそれ以外の人で分けて分析することも大事だと思う。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>回答方式に左右されていることもあるかもしれないが、可児駅周辺の駐車場は利用率も高く、駐車場の需要についてはかなり高いものと認識している。</p> |
| <p>協議第2号 事務局</p> | <p>可児市地域公共交通網形成計画について、資料7に基づき説明を行った。</p> |
| <p>質 疑 応 答</p> | |
| <p>委員</p> | <p>10月末の会議において、指標と基準値までしか出せない状態であると、全体の展望が見えない中で協議をしないといけないため、市で想定される事業については羅列でも構わないので、こういったことを考えていて、全体としてはこうしたものを目指していきましょう、という提示をしていただきたい。</p> <p>路線検索サービスなどは、特に費用が掛からない事業であるため、やれるところからやっていくことが大事であると思っている。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>検索サービスについては、現在準備段階に入っているところであるため、このまま進めていきたいと考えている。</p> <p>可児市がやりたい事業については、ご指摘の通り、委員のみなさまに提示をしなければいけない。ここから2か月の間で、ある程度踏み込んで出せるものは出していきたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>この計画には「持続可能な」という言葉が使われると思うが、当社の路線バスは持続不可能なものになってきているため、配慮していただけるとありがたいと思っている。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>計画では各交通事業者が単独で努力をして、公共交通網を維持していくわけではなく、企業や団体相互が連携しながらやっていくことを考えている。路線バスに乗り継ぎがしやすいコミュニティバスを検討するなど、1社だけで頑張ってくださいということのないようにしていきたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>本日の要点としてまず事業実績等の報告について、利用者の増減の傾向を</p> |

つかむだけではなく、もう少し詳しい理由を考える必要があると感じたため、ぜひ検討して欲しい。

関連することだが、配布された概要で後半に一部詳しい分析がされている箇所があった。それを見ると、詳しい分析をしようとするとサンプル数が極端に少なくなってしまうことがわかる。分析を進めていくうえで、このサンプル数という点にも気を配って欲しい。

また、アンケート調査というものには一定の傾向をつかむという意味では有意義なものであるが、どうしても回答されない人もいるため、本当の理由がアンケートだけでは浮かんでこない場合もある。そういった場合は、ぜひ住民の生の声を聞きに行く機会を設ける努力をするといいと感じた。

この計画はここにいる策定に加わった主体間で一定の協力が大前提となる。サービスの確保について、1つの主体に丸投げするのではなく、そういったサービスを確保するためには乗客はどのくらいの量が必要で、その人数を確保するためには、市としては何ができて、住民としては何ができるのか、というところまでを書き込んだうえで、それぞれの主体が努力をするということが趣旨である。先ほど出た路線バスとコミバスの連携は非常に重要だと思うし、これが網形成の網という意味だと思うので、今後検討して欲しい。

特に連携という意味で考えているのは、乗り継いで行けるという「空間的な連携」、スケジュール的な意味での「時間的な連携」、すぐには難しいかもしれないが「料金の連携」の3つが重要だと思っている。この3つがかみ合っただけでこそ連携が出来ているということになると思うので、簡単ではないと思うが、意識しながら協議を重ねていって欲しい。

その他

閉会

事務局

閉会を宣言した。

以上